

雲南市脱炭素社会計画策定にあたって新たな農業振興について

提案内容	<p>【提案理由】</p> <p>近年、中山間地ばかりでなく平坦地の大区画圃場でも耕作放棄地が広がり、雑草地が目につくようになりました。雲南市の農地は、中山間地域が多く担い手不足や獣被害による耕作放棄地が年々増加しています。また、地権者が転出・転居し、空き家と共に不在地主が発生し、手つかずの農地も多くなりました。こうした耕作放棄地はやがて病害虫の発生源、害獣の住処となり、隣接農地の荒廃要因になります。このため農業委員会では、農地パトロールを行い、農地の適正管理を勧められていますがなかなか思惑どおりにいかないのが現実です。</p> <p>今後ますます耕作放棄地は拡大が予想されます。この現象は、農村部における生産条件や生活環境の悪化が進行し、集落機能の破壊そのものです。荒廃地が住居区域に拡大しないよう、集落（自治会）維持対策として早急に手を打つ必要があります。</p> <p>【提案内容】</p> <p>日当たりの良い、広い農地が雑草に覆われ、茅や雑木が茂っている光景を見るにつけ、農業・農村の衰退と農村集落消滅の予感を禁じえません。この地で、もっと豊かな農村風景は描けないものかと考えさせられます。土地は、誰が何に使おうと、持って逃げることは有りません。住む人の生活文化に有益で、快適に暮らすことができれば、そこには住む人が居るはずで。課題は、土地（農地）の有効利用にあると考えます。</p> <p>その一つを紹介し、提案とします。</p> <p>何も生まれぬ、むしろマイナス価値でさえある遊休農地の拡大にストップをかけ、これを有効利用しプラスの価値に変えることが必要ではないでしょうか。先の「雲南市脱炭素宣言」に掲げられた、再生可能エネルギーの導入推進の柱となりうるものとして「遊休農地への農業型太陽光発電施設（パネル）の設置」と、それによる「施設型園芸農業の普及」を提案します。</p> <p>当地は、降雪、降雨日数が多い。荒廃・休耕田を有効活用して農業用電気を発電し、これを活用して温室・ハウス栽培による花卉・園芸・果樹の周年出荷を可能し、所得率の高い集約的な農業へと移行することにより、農業経営の安定化が図れないか。それに伴い、近代農業を目指す若手人材のUターンを誘発できないか・・・遊休農地が新規農業者を支援する仕組みづくり。</p> <p>用地確保や施設整備には、農地転用（農地法4・5条関係）や資金調達（補助金・融資）など面倒な事務作業が伴うため、「雲南市農業開発公社」を立ち上げ、事業主体となることが望ましいと考えます。雲南市の新しい農業政策を示すよい機会となると考えます。この提案が「雲南市脱炭素社会実現計画」づくりの参考になれば幸いです。</p> <p>「為せば成る、為さねば成らぬ何事も、成らぬは人の為さぬなりけり」です。</p> <p>ご検討ください。以上</p>
回答	<p>ご提案いただきありがとうございます。</p> <p>市では、市内農地の大半を占める水田においては、集落営農組織の集約的営農方式などによる耕作や中山間地域等直接支払制度など、特に営農継続に向けた様々な支援を展開しており、農家の皆様には支援策も活用して可能な限り営農継続に努めて頂きたいと考えています。こうした中、耕作放棄対策も兼ねての太陽光発電パネルの設置に関するご要望に関しましては、農地法や農業振興地域の整備に関する法律等の国が定める規定により、設置出来る農地が限定されているため、ご希望の農地に必ずしも設置できない場合があります。</p> <p>つきましては、農地への太陽光発電パネルの設置を希望される場合は、設置可能かどうか必ず事前に農林振興部農政課若しくは農業委員会事務局にご相談下さいますようお願い致します。（回答部署：農林振興部農政課）</p> <p>雲南市は6月に脱炭素宣言を表明し、庁内のプロジェクトチームを立ち上げ、再生可能エネルギー導入に向けた検討を行い、令和5年度前に実行計画を策定する予定です。</p> <p>全国では耕作放棄地において、ソーラーシェアリング（営農型太陽光発電）を実施している地域があります。そうした先進的な取組みを参考にしながら、雲南市における再生可能エネルギー導入を積極的に行うよう検討してまいります。（回答部署：市民環境部環境政策課）</p>